

帯広-JICA 協力隊連携事業『パラグアイ国小規模酪農家強化プロジェクト』
第2フェーズ第3回短期派遣要請概要等

1. 国名：パラグアイ共和国

2. 職種・人数：家畜飼育 4名

3. 募集：家畜飼育 4名

4. 派遣期間：平成31年8月中下旬頃～9月下旬頃を予定

※JICAの選考終了後に決定

5. 配属先概要

1) 受入省庁：経済・社会開発企画庁

2) 配属先：イタプア県農業生産開発局

3) 任地：フラム市、サンファン・デル・パラナ市、カルメン・デル・パラナ市

4) イタプア県概要：

イタプア県は国内第3の都市エンカルナシオン市を県庁所在地とする。小麦、大豆などの穀物、さらには畜肉製品や牛乳加工品の生産地として知られている。30市町村から構成され、県庁は農業分野を担う農業生産開発局をはじめ、公共事業部、教育文化部、環境部他から成り立つ。同県内には世界各国からの移住が多いが、特にドイツ系と日系の移住が多く、これまで様々なセクターでJICAの技術協力が実施されている。

6. 要請概要

1) 要請理由

平成24年から平成30年3月まで、JICAと帯広畜産大学は共同で「イタプア県小規模酪農家強化プロジェクト（FOPROLEI）」を実施してきた。この事業では、2職種4名の長期ボランティアを県庁、コロネル・ボガード市、ヘネラル・アルティーガス市、サンペドロ・デ・パラナ市に派遣し、家畜飼養管理技術、健康・衛生管理技術等の向上を目的としてプロジェクトを進めると共に、半年ごとに短期学生ボランティアを派遣し、プロジェクトの進捗状況をモニタリング調査してきた。本年3月に行われた最終評価報告会では、各市において、乳質向上、繁殖効率向上、サイレージ製造の普及など酪農技術の改善が図られ、特に、コロネル・ボガード市では酪農家が生乳を集乳所に集荷し、まとめて乳業会社に販売するというプロジェクト目標を達成できたことが報告された。これらの成果に加え、同国では酪農分野の発展、特に安定的で質の高い牛乳生産に取り組んでいることから、イタプア県から第2フェーズの要請がなされた。

この要請に基づき、青年海外協力隊事務局、JICA パラグアイ事務所、帯広畜産大学間で協議を行い、同県にて第 2 フェーズを行うこととし、フラム市、サンファン・デル・パラナ市、カルメン・デル・パラナ市の 3 市を対象とすることとした。

現在フラム市、サンファン・デル・パラナ市において長期隊員が配属され活動中である。またイタプア県庁およびカルメン・デル・パラナ市は、平成 31 年 7 月に赴任する予定である。

2) 予定されている活動内容

本プロジェクトでは、搾乳衛生、飼料給与改善、繁殖管理改善をとおして、酪農生産性を向上させて酪農家の経営改善を図ることを目的とする。2 市については、長期隊員が配属され半年以上が経過していることから、長期隊員のサポートを受け、モニタリング調査を行い、残り 1 市については、現地の状況に併せて調査を実施する。

3) 業務使用言語：スペイン語（訓練言語）

4) 選考指定言語：英語

※学内選考時は、TOEIC 等のスコアは不所持でも問題ありませんが、JICA 選考時に必要になりますので、JICA ボランティア応募時まで各自受験しておいてください。

<https://www.jica.go.jp/volunteer/application/short-seinen/language/>

7. 地域概況

- 1) 気候：温暖湿潤気候
- 2) 気温：（年間：0～40℃、派遣時期：15～35℃）
- 3) 電気：安定
- 4) 電話：通話・インターネット可
- 5) 水道：安定

8. 応募条件

- 1) 帯広畜産大学所属（派遣時に学部 3 年生以上）
- 2) 日本国籍を有していること（JICA から提示された条件）
- 3) 教職課程を受講していないこと
（派遣期間中に教職課程の集中講義が設定されているため）

9. その他

JICA 合否決定後、大学が定期的に行うスペイン語研修や搾乳実習などに参加すること。

以上